

岡田謙三

KENZO OKADA

Paris
Meguro
New York

パリ・目黒・ニューヨーク



《間隔》1958年、油彩・キャンバス、220.5×172.5cm、目黒区美術館

2026

2

21
sat

5/10 sun

目黒区美術館

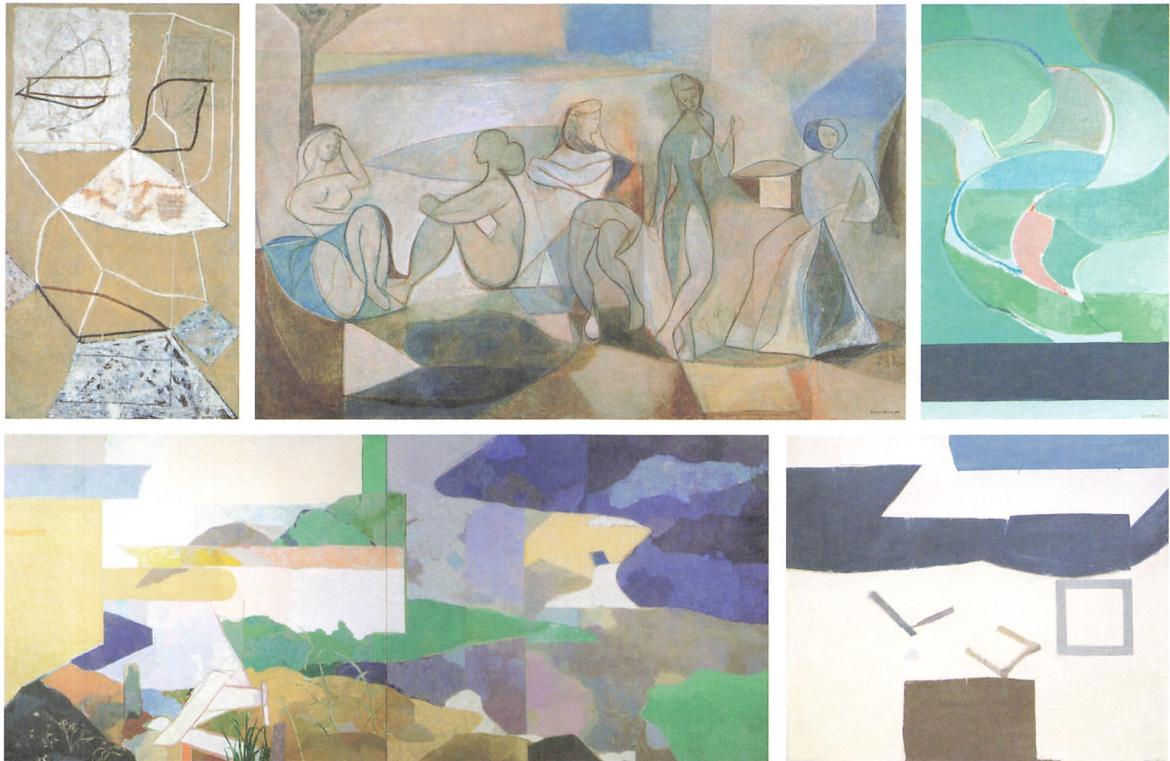
10:00-18:00 (入館は17:30まで) 月曜休館 (ただし2月23日[月・祝]、5月4日[月・祝]は開館、2月24日[火]、5月7日[木]は休館)
一般900(700)円、大高生・65歳以上700(550)円、中学生以下無料

*障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金 *目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります (他の割引との併用はできません)
主催：(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館 協賛：(公財)北野生涯教育振興会 特別協力：秋田市立千秋美術館、横浜美術館

Meguro
Museum of
Art, Tokyo

1920年代のパリと1950年代以降のニューヨーク、この二つの都市で創作活動をし、さらに1935年には目黒区自由が丘にアトリエを構えて活動した画家・岡田謙三(1902-1982)。その作風はこれらの都市での経験に影響を受けながら形作られていきました。

岡田は、東京美術学校(現 東京藝術大学)入学から約2年後の1924年にパリへ渡ります。第一次世界大戦終結により、世界各国から芸術家が集い、活気に満ちたパリでの日々は、若き日の岡田にとって全てが新しく、視野の広がる経験となりました。モンパルナスのカフェなどに集まって議論していた芸術家たちの仲間に加わり、後に確立する抽象的な作風の基礎となる考え方にも触れ、さながら「心の訓練のようだった」と振り返っています。1927年の帰国後は、戦前から戦後にかけての時代のうねりの中で、これまで培ってきた技巧や様式から離れ、新たに実験の日々を積み重ねていきます。戦後早々に見据えていた渡米を1950年に実現させると、ニューヨークでは抽象表現主義の画家と交流を持ちながら、やがて、淡い色面を組み合わせる独自の作風を確立させました。自身の根源的な感性への回帰の中に築き上げた静謐で力強い表現は、パリとニューヨーク、そして目黒のアトリエでの模索の日々を抜きに語ることはできないでしょう。本展は、岡田の画風の変遷を三つの都市での経験からたどります。



左上から時計回り

- 《竹》1952年、油彩・キャンバス、144.5×83.2cm、秋田市立千秋美術館
- 《五人》1949年、油彩・キャンバス、202.2×319.2cm、目黒区美術館
- 《風 No.2》1969年、油彩・キャンバス、208.0×127.0cm、秋田市立千秋美術館
- 《黒と象牙色》1955年、油彩・キャンバス、182.5×215.5cm、横浜美術館
- 《ダブル・ランドスケープ》1974年、油彩・キャンバス、198.0×458.0cm、群馬県立近代美術館

関連催事

大人のための美術カフェ

本展を担当した学芸員が、展覧会の見どころなどについて話します。

日時：3月22日(日) 14:00～15:00頃

ナビゲーター：当館学芸員

場所：目黒区美術館 1階ワークショップ室

参加方法：当日先着順(30名程度)

講演会「48歳からの挑戦」

「岡田謙三展」(2003～2004年、横浜美術館ほか)を担当された講師をお招きし、岡田謙三が1950年代初期に編み出した制作手法や様式などについてお話しいたします。

日時：5月2日(土) 14:00～15:30

講師：横浜美術館 副館長・首席学芸員 柏木智雄

場所：目黒区美術館 1階ワークショップ室

参加方法：当日先着順(50名程度)

*いずれの催事も当日有効の観覧券が必要です。*詳細は当館のウェブサイトをご覧ください。



同時期開催

ワークショップ2026春

土日を中心に、展覧会に関連したワークショップ等を開催いたします。



詳しいマップは
こちらから

公式SNS



- >> JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線「目黒」駅(西口)から徒歩10分
- >> 東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒」駅から徒歩20分
- >> 東急バス「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3分
- *目黒区民センター隣接
- *当館には来館者専用の駐車場はありませんので、電車・バスなど公共交通機関をご利用ください。
- *お車でお越しの場合は隣接の目黒区民センターの駐車場(有料)をご利用ください。